

---

# 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 National Institutes for Quantum and Radiological Science and Technology 量子医学・医療部門

---



量研パンフレットより引用

**所在地** 〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川 4 丁目 9 番 1 号  
043-251-2111(代表)

### 施設概要

量子科学技術研究開発機構(量研/QST)は、放射線医学総合研究所と日本原子力研究開発機構の量子ビーム部門と核融合部門が再編統合され、平成 28 年 4 月 1 日に新たに発足した国立研究開発法人です。QST は、重粒子線などによるがんの治療や、放射線の人体への影響や医学利用、放射線防護や被ばく医療などの研究、量子ビームによる物質・材料科学、生命科学等の先端研究開発、高強度レーザーなどを利用した光量子科学研究、国際協定に基づく ITER 計画及び幅広いアプローチ(BA)活動を中心とした人類究極のエネルギー源である核融合の研究などを実施していきます。

全国 5 研究所にある放射線医学、量子ビームや核融合分野の研究開発力を統合し、世界トップクラスの量子科学技術研究開発プラットフォームを構築します。量子科学技術分野の研究シーズを探索し萌芽的研究として育て、量子科学技術と医学・生命科学の融合領域等、新たな研究分野の地平を開き世界に冠たるとして先導的な役割を果たしていきます。さらに、得られた成果を広く社会に還元するために、大学や産業界を含む研究機関や行政機関との人材交流 や共同研究など、産学官連携活動を積極的に推進し共創を誘発する場を形成します。また量子科学技術による世界中の人々との協同を介して新たな知の創造や異文化理解・尊重を育み「調和ある多様性の創造」を推進します。このような活動により、平和で心豊かな人類社会の発展に貢献していきます。

事業内容はこちらをご参照ください。

QST News Letter 2019 Apr. No.08

<https://www.qst.go.jp/uploaded/attachment/10621.pdf>



## 特別講演 抄録

---

医療にできること、文学にできること

医師・作家  
海堂 尊

私が医師になった1988年は昭和の終わりで、私の医師キャリアはほぼ平成時代にあったといえます。20世紀、私は外科医でしたが当時、医師は今よりもずっと尊敬されていたように思います。その頃、医師の業務は単純に「患者を治す」ということに集約されていました。

二十世紀の終わり頃、私は外科医から病理医に転じました。そしてその業務の中で死亡時画像診断(オートプシー・イメージング=Ai)の概念を思いつき、社会導入すべく活動を始めたのです。そうした独創的な活動ができたのは「放射線医学総合研究所・重粒子医科学センター」あればこそだった、と今でも思い、感謝しています。

今日、医療従事者は多様な価値観への対応と、治療のみならず医療にまつわる社会的事象全般に対応することを望まれています。21世紀になり医療に対する社会の視線は過剰なほど厳しくなりました。特に医療事故に対する霞が関の対応はヒステリックにすら感じられ、そんな風潮に反発してデビュー作「チーム・バチスタの栄光」が生まれることになりました。

私は「医師として患者を助けること」から、「患者を助ける、誠実な医師を守る」ことにシフトしていたように思います。そのための手段として文学は大変有効な武器でした。

こんな私では、医療に関しみなさんに役立つ話をするのは難しいと思いますので、質疑応答のような会にしたいと思います。みなさんにとって有意義な言葉を私から引き出してください。

---

## 講師紹介

海堂 尊 医師・作家

1961年 千葉県生まれ

1988年 千葉大学医学部卒 千葉大学第一外科入局

1997年 千葉大学医学大学院修了

1997年～2012年 放射線医学総合研究所重粒子医科学センター臨床検査室医長

2008年～2016年 同センターAi情報研究推進室室長

2016年～現在 量子医学・医療部門 QST病院 臨床検査・病理室 協力研究員

2006年 『チームバチスタの栄光』(宝島社)で第四回このミステリーがすごい!大賞

受賞し、作家デビュー。同シリーズは映画化、ドラマ化され、累計一千万部を越えた。

近作は『ポーラスター3・フィデル誕生』(文春文庫)、『氷獄』(KADOKAWA)。



【著作リスト】(◎：A iが関連する書籍) F：フィクション N：ノンフィクション

F 01	◎『チーム・バチスタの栄光』	(宝島社)	2006
F 02	◎『ナイチンゲールの沈黙』	(宝島社)	
F 03	◎『螺鈿迷宮』	(角川書店)	
F 04	◎『ジェネラル・ルージュの凱旋』	(宝島社)	2007
F 05	『ブラックペアン1988』	(講談社)	
F 06	『夢見る黄金地球儀』	(東京創元社)	
N 01	◎『死因不明社会 A iが拓く新しい医療』(講談社ブルーバックス)		
F 07	『医学のたまご』	(理論社)	2008
F 08	『ジーン・ワルツ』	(新潮社)	
F 09	『ひかりの剣』	(文藝春秋社)	
F 10	◎『イノセント・ゲリラの祝祭』	(宝島社)	
F 11	◎『ジェネラル・ルージュの伝説』	(宝島社)	2009
F 12	◎『極北クレイマー』	(朝日新聞出版)	
N 02	『外科医 須磨久善』	(講談社)	
N 03	◎『トリセツ・カラダ カラダ地図を描こう』(宝島社)		
F 13	『マドンナ・ヴェルデ』	(新潮社)	2010
F 14	『ブレイズメス1990』	(講談社)	
F 15	◎『アリアドネの弾丸』	(宝島社)	
F 16	◎『モルフェウスの領域』	(角川書店)	
N 04	◎『ゴーゴーA i アカデミズム闘争4000日』(講談社)		2011
F 17	◎『ナニワ・モンスター』	(新潮社)	
N 05	◎『救命 東日本大震災、医師たちの奮闘』(監修) (新潮社)		
N 06	◎『死因不明社会2 なぜA iが必要なのか』(講談社ブルーバックス)		
F 18	◎『極北ラブソディ』	(朝日新聞出版)	
F 19	◎『玉村警部補の災難』	(宝島社)	2012
N 07	◎『医療防衛 なぜ日本医師会は闘うのか』(角川 one テーマ21)		
N 08	◎『日本の医療 この人を見よ 「海堂ラボ」vol. 1』(PHP新書)		
N 09	◎『ほんとうの診断学「死因不明社会」を許さない』(新潮選書)		
F 20	◎『ケルベロスの肖像』	(宝島社)	
F 21	『スリジェセンター1991』	(講談社)	
N 10	『トリセツ・ヤマイ』	(宝島社)	
F 22	◎『輝天炎上』	(角川書店)	2013
F 23	『ガンコロリン』(文庫改題『ランクA病院の愉悦』) (新潮社)		
N 11	◎『日本の医療 この人が動かす 「海堂ラボ」vol. 2』(PHP新書)		
N 12	◎『日本の医療 知られざる変革者たち 海堂ラボvol. 3』(PHP新書) 2014		
F 24	◎『カレイドスコープの箱庭』	(宝島社)	
F 25	◎『アクアマリンの神殿』	(角川書店)	
N 13	◎『いまさらですが、無頼派宣言。』	(宝島社)	
F 26	◎『スカラムーシュ・ムーン』	(新潮社)	2015
F 27	『ポーラスター1 ゲバラ覚醒』	(文藝春秋)	2016
F 28	『ポーラスター2 ゲバラ漂流』	(文藝春秋)	2017
F 29	◎『玉村警部補の巡礼』	(宝島社)	2018
N 14	◎『死因不明社会2018』(増補版)	(講談社文庫)	
F 30	『ポーラスター3 フィデル誕生』	(文藝春秋)	2019
N 15	◎『新書版 トリセツ・カラダ』	(宝島社)	
F 31	◎『氷獄』	(KADOKAWA)	